

※住まいづくりアクションプランの該当項目

方針1 取組 5-9 高齢社会での「住まい」のモデル事業

10年後の松風台の住環境についてワークショップ 開催報告

1. 実施目的

第2回目のワークショップでは、第1回の結果を踏まえ、地域住民の世代交代、各種活動をしている住民の高齢化などの状況を踏まえ、まち歩きを実施するとともに松風台で暮らして感じる住まいに関する課題（現状、将来に向けて）について話し合うとともに、地域でお互いにできることについて検討を進めた。

2. 開催内容

- ①開催日 平成31年2月23日（土）
 - ②開催時間 13:00～16:30
 - ③開催場所 松風台自治会館 集会室
 - ④参加人数 22名
 - ⑤実施内容
 - ◇まち歩き
 - ◇グループワーク
 - ～松風台が魅力あるまちであり続けるために
 - どのようなことが必要か話し合おう！～
 - ◇発表及び加藤委員による講評
- ※なお、加藤委員の他、山本委員及び野口委員に参画いただいた。

3. グループワークの結果

(1) 地域の資源

(風景・自然・建物・場所)

- ・3つの公園、公園が綺麗／木が伐採され明るくなった／ゴミのポイ捨てがない
- ・道路が広く綺麗、街並みが綺麗

(地域活動)

- ・同じ住環境のもと、同じ問題意識を持っている
- ・東公園前の舗装、ツゲの木を切るなど課題に対応した地域活動が実施されている
- ・子育てサロン

(自治会活動)

- ・班単位で人間関係を把握

(2) 松風台で暮らして感じる課題（現状、将来に向けて）

※高齢化する中での生活、地域での人のつながり、各種活動の維持・継続など・・・

(地域活動)

- ・これまでの地域活動のレビューが必要
- ・ハード面の課題に対応してきたが、目に見えない課題をどのように把握するのが課題

- ・思いはあるが活動に参加できない、活動への参加のタイミングがわからない
- ・公園の管理は、有志頼みに限界 担い手がいなくなりつつある

(相互交流)

- ・自治会内のコミュニケーションのためお互いのあいさつの強化が必要
- ・若い人と前から住んでいる人とのギャップ
- ・要支援者に対するケアが薄くなった

(ハード面)

- ・住所表示の問題 避難場所の位置がはっきり表示されていない
- ・松風台交差点の渋滞がひどい
- ・地域のコミュニティ施設が少ない

(3) 地域住民の世代交代、各種活動をしている人が高齢化する中で、地域でお互いにできることを考えてみましょう！！

(居住環境)

- ・松風台は居住環境が良く、築いてきたブランドのハードルを下げることなく維持していくことが必要。

(自治会・地域活動)

- ・情報発信機能を強化し、活動へ携わることの負担感をなくし、自治会活動の継続性を向上させる。
- ・新しいことを始めるよりも、今までの活動をしっかり続けることが大切

(世代交代)

- ・若い世代のニーズがわからない→理解することから始め、世代交代がスムーズに行く可能性がある
- ・班長をやって初めて地域のことを知ることができる。班長をやって良かったという空気づくり。
- ・若い世代もまちづくりに携わりたいという思いはある一方、共働き等のため、長時間関わることができない。手伝える時に手伝えるという雰囲気づくりが必要
- ・若い世代同士の繋がりが希薄に見える。意見を聞く場を設ける。

(若い世代の参画促進)

- ・住民が参加しやすいイベントづくり。若い世代向けの行事（子ども向けのイベント）。
- ・ボランティアをできる学生を取り込む。

(その他)

- ・知恵（事例）の提供

4. ワークショップの実施結果と今後の展開

10年後の「住まい方」や「暮らし方」についての方策の検討を目指していたが、地域の方々からは、現在の活動や組織の継続性という直近の課題のご意見が多く、当初目指していた方向性への展開が難しかった。

開催結果を踏まえ、その実施方法を検証した上で、どのように地域にアプローチをかけるのか、具体的なテーマ設定をした上で実施するのか等、手法を含めて検討する。